

間違っって祈ったばっかりに

茨城町

むかし、涸沼川に面した山のふもとに、孫左衛門という男が、年寄った母親と二人で貧しくも仲睦まじく暮らしていました。

ある日、漁師仲間が

「磐城国(福島県)のある弁天様にお願いと願いが叶うらしい。この船主もその弁天様に『船主にしてください』と願かけしたおかげで船主になれたらしいぞ」と話しているのを耳にしました。

孫左衛門は、いいことを聞いたと、仲間には内緒でこの弁天様へお参りに向かいました。

「どうぞ、おらのことも主にしてください」

熱心にお願りする孫左衛門ですが「船主に」と言うところを間違えてしまいました。

弁天様は、不思議な願いをする男だと思いましたが、真剣に祈っている姿に心を打たれ

「主になりたいとは、変わったことを願う者もいるものじゃ。さっそく願いをかなえてやるぞ」

と、孫左衛門が願ったとおりの大蛇にしました。そして、孫左衛門は沼の主になりました。



しばらくして、孫左衛門が家に帰って来ました。あきらめていた母親はたいそう喜びました。また、孫左衛門がどっさりとお金や宝物を持ってきたので、びっくりしました。

「おっかさん、くたびれたから、隣の部屋で寝させてくれ。ただ、寝るところを決して見ないでくれな。たとえ火事になってもだぞ」と、念をおして寝付きました。

しばらくすると、ものすごいいびきが聞こえてきて、思わず母親は起きてしまいました。心配になり隙間から部屋を覗くと、大蛇がとぐろをまいて、いびきをかいているのです。驚いた母親でしたが、そしらぬ顔をして寝たふりをしました。

翌朝、孫左衛門が人間の姿で起きて来ました。

「おっかさん。俺の正体を見られたからには、もう人間の姿で会うことはできない」

と言うと、孫左衛門はこれまでのことを話しました。それを聞いた母親は、とても悲しみました。

「孫左、おらのことも沼へ連れて行っておくれ」

と願いましたが、孫左衛門は聞き入れません。「それじゃ体を大事にしてくれ。金がなくなりそうになったら、いくらでも届けっから」

という姿を消しました。

母親は、沼へ行き息子の名前を呼びました。すると、大蛇が一度だけ首を出しましたが、すぐに水の中へ入ってしまい、もう二度と姿を見せることはありませんでした。

(参考文献)茨城の民話 第一集 日向野徳久編(未來社)



「運ぶ」を支え、地域社会を笑顔にする

ISUZU 茨城いすゞ自動車株式会社

本社 / 〒310-0063 水戸市五軒町1-2-5 ☎029-225-1215(大代) <https://www.ibaraki-isuzu.co.jp>

この一年間のご愛顧ありがとうございました。来年もよろしくお願ひ申し上げます。